

昭和二十二年六月十二日（第三種郵便物認可）
令和七年十一月十日発行（毎月一回十日発行）

定価 五〇〇円

第1010号

龍

跳

第八十一卷

12

月号

高知
龍跳書道会

北代碧山書

醉裏樂天真

北代碧山書

醉裏樂天真

翻刻左繡敘^{しゅう}

貫名松翁^{ぬきなすお}

後之為史者。固將永法於斯。
 奉以周旋也。然春秋之為書。
 俟後賢傳說疏解。尚且左支
 右吾。不易明晰如是。則後人
 何從措手。古之所稱以為良
 史者。不以不懼不諂不失事。

後之為史者。固將「取法於斯」奉以周旋也。然春秋之為書。俟後賢傳說疏解。「尚且左支右吾」。
 不易明晰如是。則後人何從措手。古之所稱以為良史者。不以「不懼不諂不失事」。

この左繡敘稿本は、松翁が自家出版した左繡（嘉永七年刊）のための叙文の草稿である。細字行書のよき模範といえよう。

福 原 曉 雲 書

大漠沙如雪 燕山月似鉤 何當金絡腦 快走踏清秋

大漠沙如雪 燕山月似鉤
何當金絡腦 快走踏清秋

西 山 極 山 臨

敬雖權以此辭折安所鑒自稱勝父不亦過

敬雖權以此辭折安所鑒
自稱勝父不亦過

敬
原
曉
雲

梅
川
桂
龍
書

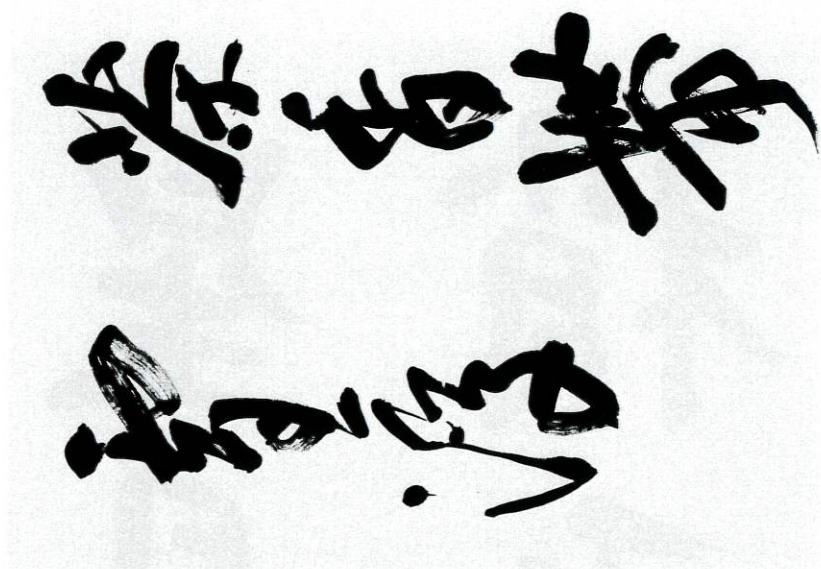
星見えて樹梢昏し

星見樹
梢昏

12月20日締切

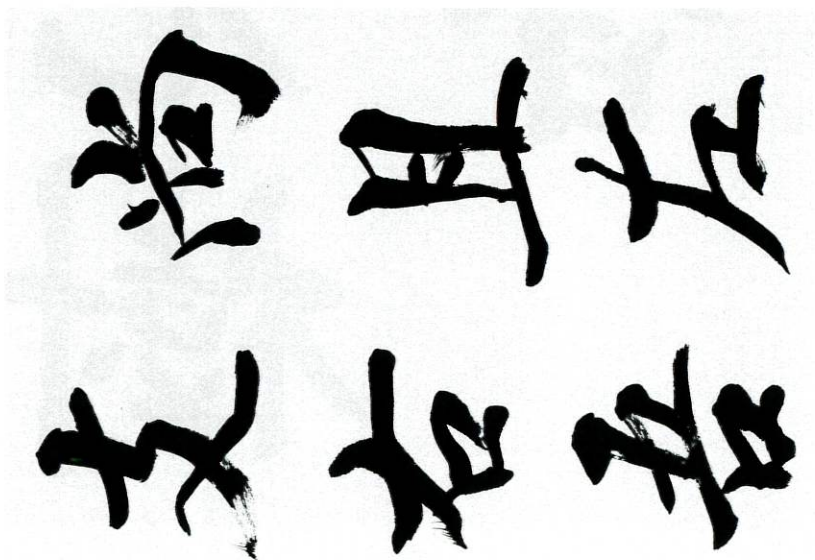
福 原 曉 雲 書

茶香雪を帯びて受ふ



福 原 曉 雲 臨

尚且左支右



江 西 澄 翠 書

雁將煉字來吟野
雕帶森花韻證柳

弘 田 賀 峰 臨

念通真非理生拙病覺
卷心切小圓能留客青

中 平 美 峰 臨

將寂澄田備磨大
樣和氣真理大字

岩 河 里 華 臨

朱軾於此書誦之芭
謂夫子修魯史

負千里出外析珪於
留文景出間看

和子信

田村和子

左傳非邱明所作也
唐宋已來論之

圭子信

大平圭子

前之りふは見え
古より思ひは

紫秋信

横田紫秋

町迄二程有来入木之
水其間流之

恵花信

野中恵花

方侯達日ト不幽宅
魂而有知無恙

雄山信

岡田雄山

道隨時泰慶興泉流我
后夕惕雖休弗休

深瀬信

深瀬緑堂

江月照松風吹

美草信

高橋美草

路不拾遺知政肅野
多滯穗是時和

眉州信

田村眉州

黃河曲裏沙為岸白
了津邊柳白城

紅風信

山中紅風

巖了夫平勾馬相木物
子雲以有反不

江月信

佐竹江月

条幅当選作品 廣末幽念 選評

★天位

田村和子君 粘りのある線質、構え大きく申し分ない。
大平圭子君 やわらかな線質で若々しい作。
横田紫秋君 なめらかな動きでさわやかな作。
野中恵花君 おだやかな線で好感がもてる。
岡田雄山君 おおらかな気分でよい。

★地位

深瀬緑堂君 少しかたいところが見られる。
高橋美草君 大胆で思いきった手法ですばらしい。
田村眉州君 力まず楽に臨し良い。

★人位

山中紅風君 とぼけた雰囲気楽しい。
佐竹江月君 のびのびと書けた態度に惹かれた。

作品は毎月20日必着
(必ず守って下さい)

▷ 次回審査会 ◁

11月の審査は23日（日曜）午前9時30分に開始
します。審査会場は**高知城ホール**です。

審査会終了後（12時30分～）条幅勉強会を行います。

詳しくは25頁をご覧ください。（参加料500円）

健康
対策

12月20日締切

研究
発表

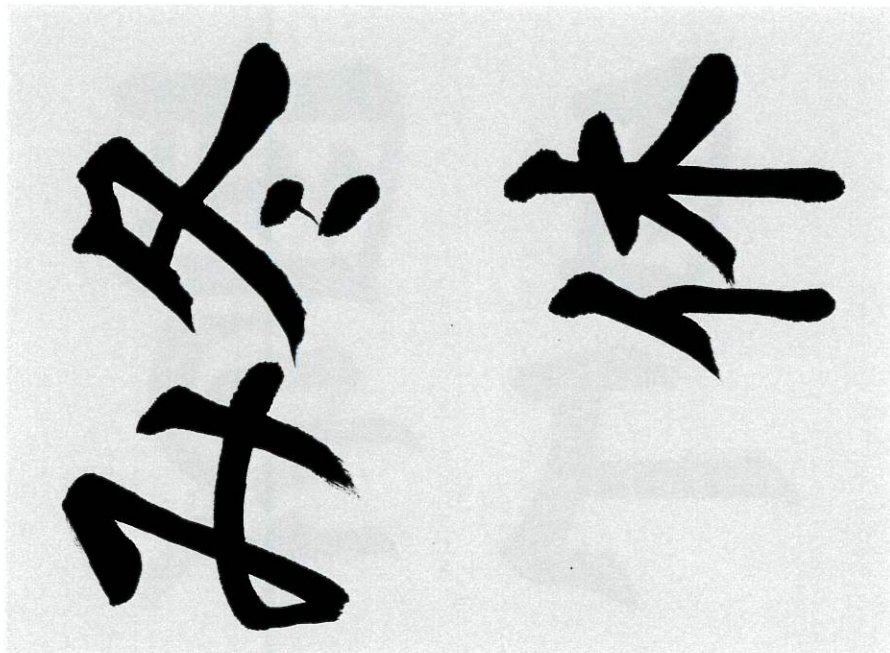
12月20日締切

山四国

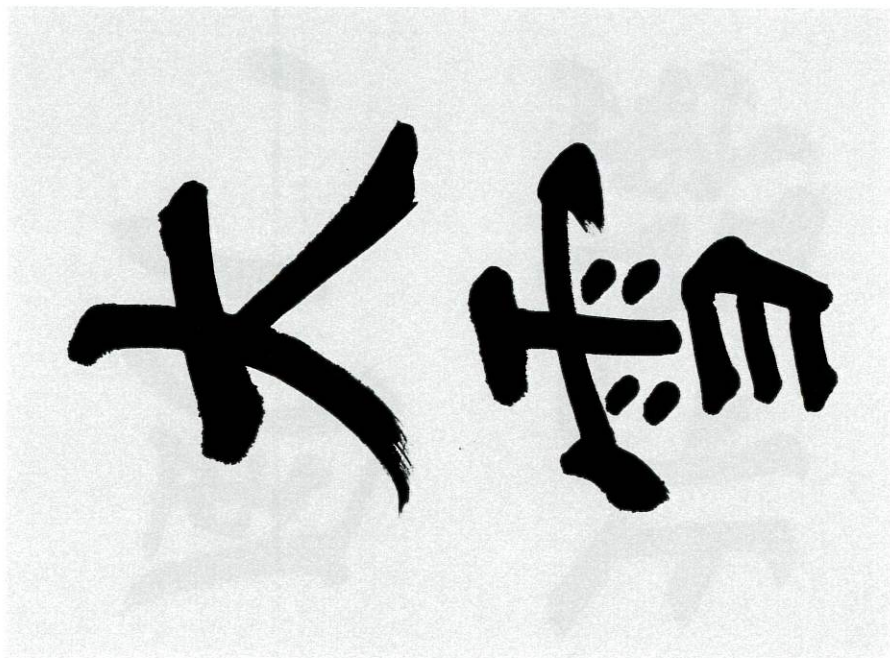
12月20日締切

北強風、

12月20日締切



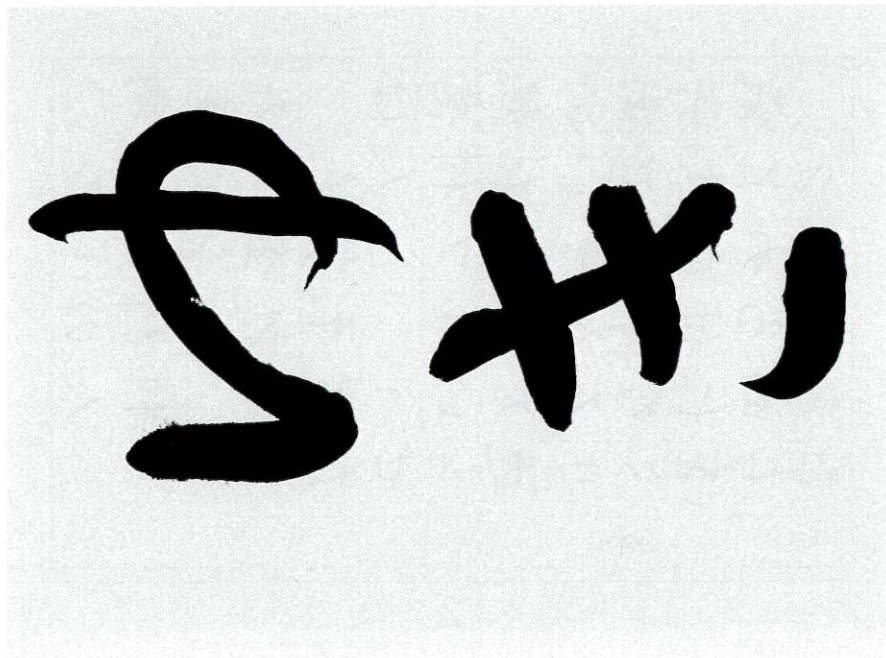
12月20日締切



12月20日締切



12月20日締切



12月20日締切

異なる立場の人どうして話									
し合うと、自分の立場につい									
て新しい見方を見つけたり、									
異なる立場のよいところに気									
づいたりして、自分の考えを									
深めることができます。									
学 校 名				六 年	級 段	氏 名			

12月20日締切

儀兵衛の熱意は、外を向こ									
うとしていた村人たちの足を									
止めた。そして、賃金を得ら									
れる仕事があり、それが村の									
ためになるという案は、村人									
たちをふり返らせた。									
学 校 名				五 年	級 段	氏 名			

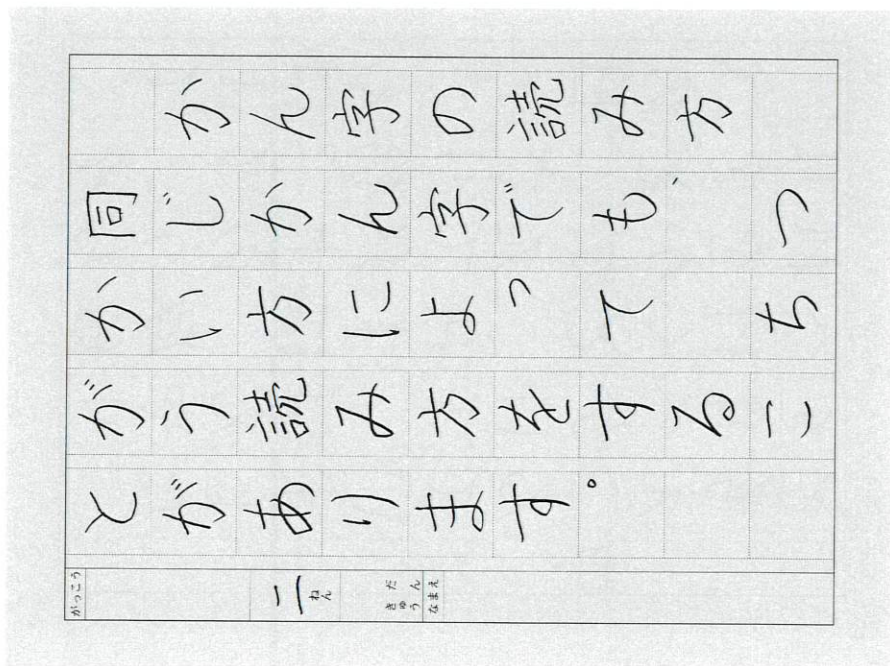
12月20日締切

学 校 名		四 年	級 段	氏 名	
次の日、ごんは山でく りをとって、さき拾って、そ れをかかえて兵十のうち へ行くと、兵十は、昼飯 を食べかけて、ぼんやり と考えこんでいました。					

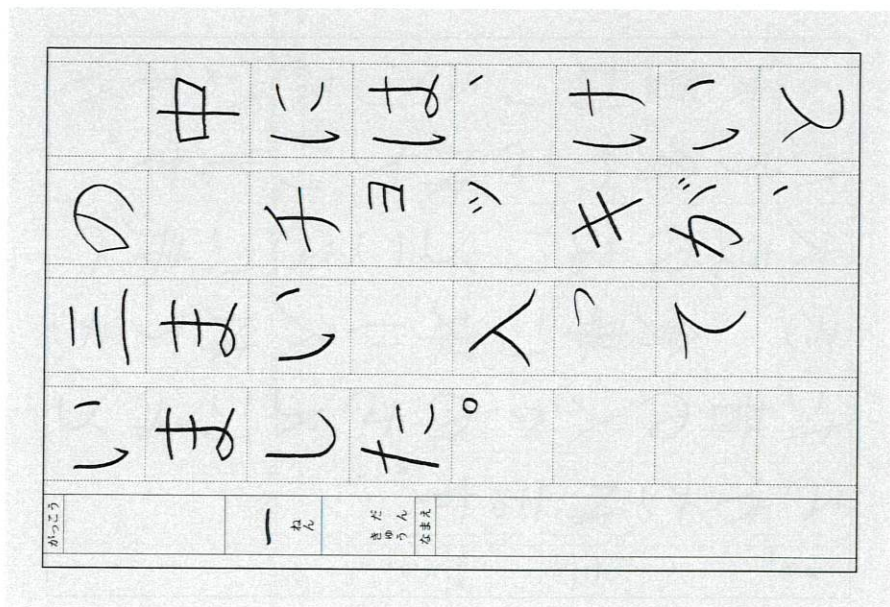
12月20日締切

学 校 名		三 年	級 段	氏 名	
大豆はいろいろなすが たで食べられています。 大豆のよいところに気づ き、食事に取り入れてき た昔の人々のちえにおど ろかされます。					

12月20日締切



12月20日締切



12月20日締切

がっこう												
ほね												
きだ うん なまえ												
おひさまが				のぼつて				あたたかい				
あざです。												

12月20日締切

★第47回書心会

会期 令和7年11月21日(金)～23日(日)

会場 須崎市立市民文化会館

午前9時～午後5時
(最終日は午後4時まで)



遠村 智子	暮煙分	遠村 長安	暮煙分	遠村 智子	暮煙分	遠村 智子	暮煙分	遠村 智子	暮煙分
遠村 智子	暮煙分	遠村 長安	暮煙分	遠村 智子	暮煙分	遠村 智子	暮煙分	遠村 智子	暮煙分
遠村 智子	暮煙分	遠村 長安	暮煙分	遠村 智子	暮煙分	遠村 智子	暮煙分	遠村 智子	暮煙分
遠村 智子	暮煙分	遠村 長安	暮煙分	遠村 智子	暮煙分	遠村 智子	暮煙分	遠村 智子	暮煙分

(一・二段目) 福原曉雲 選評
邦心君 布置章法良く、筆力紙背にあり。
里華君 清整にして、氣迫紙面に溢る。
賀峰君 充実した老練作だが、流れる。
美賀君 一点一画、几帳面に書し、すばらしい作品、落款を丁寧。
智子君 今月作久しぶりに良い作品を見ました。落款をいつも位置研究と書を入れてね。
喜泉君 伸々と良く書いて品格あり。(二・三段目) 前田秀華 選評
星子君 氣力の溢れた作品です。
美桂君 線質に味わいあり。
紫秋君 爽やかな中に勢いがありまする。
佳月君 筆力あり、氣迫の感じられる作。
伸水君 楽に書かれて線が暢びている。
(三・四段目) 西山極山 選評
知加君 基本に忠実。よくまとめている。
和美君 丁寧な書きぶり、好感がもてる。
美香君 小粒だが強さを感じる。
志津君 力みなく余白が生きている。
紀美子君 明るい作品。よくまとめている。
明美君 柔らかい線で暖かさを感じる。
(四段目) 西山極山 選評
有紀君 優しい中に強さを感じる。
衣里子君 五文字のびやかに書いている。
綾君 この調子でがんばって下さい。

朱軾於

此書

王羲之

王不尚

詠陞

王羲之

李觀

去致

順子

永和九

年歲在

王羲之

魯史

王羲之

不臻妙

王羲之

通直

王羲之

秋露

王羲之

冠山

王羲之

魯史

王羲之

魯史

王羲之

溫道協

有紀臨

高直沈

王羲之

孫一

王羲之

魯史

王羲之

骨肉殊

王羲之

良幹垂

王羲之

鬱鄉明

王羲之

高閣周

王羲之

志公

王羲之

(一・二段目) 梅川桂龍 選評

里華君 筆が紙背に食い込み庄巻の作。

賀峰君 調子良く流れて、線が生きている。

桂園君 一点一画原帖に忠実で可。竹山君 原帖の筆法とは異なると思

うが、安定感がある。深美君 小粒だが品位がある。

芳春君 書き込んだ結果か、調和のとれた作。

(二・三段目) 武内美仁 選評

悠道君 運筆自在に流れ、力みなくまとめている。

隆志君 飾り気なく、ゆったり臨して良し。

英子君 上白もとれ、筆圧の変化が上手い。

仁陽君 手本をよく見て自分の物にしている。

順子君 気力充実の作。見ごたえあり。

(三・四段目) 大原桂園 選評

倫子君 良い線質。更に原本のご研究を。

雅月君 明るくよく筆が動いている。美香君 線質よくすっきりしている。

隆光君 形はとらえている。骨格を強く。

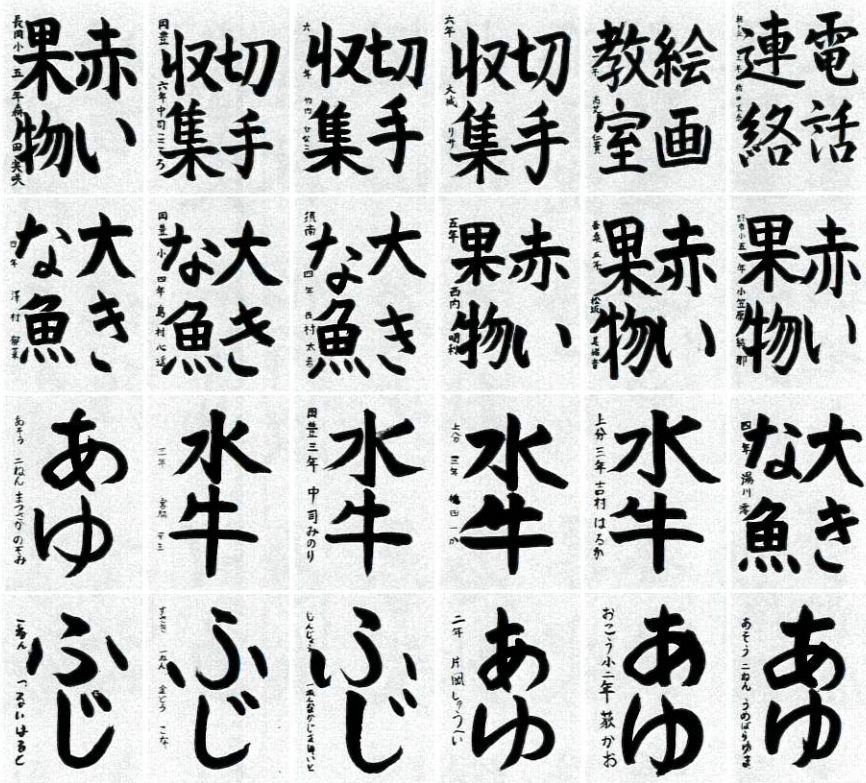
明美君 蘭亭をとらえ形よく整っている。

美知子君 趣きのある作品。(四段目) 大原桂園 選評

有紀君 形は整っている。更にご研究を。

里恵君 元氣な作品です。千津子君 書譜をとらえ。良い作品

になっている。



(一段目) 中学部
岡林邦心 選評

茉奈君 力強い作品です。
仁貴君 大らかな作品です。
深瀬緑堂 選評

(一段目) 小学六年
リサ君 力強く、体も良く動いています。
ひな君 素直で明るくまとめています。
深瀬緑堂 選評

(二・二段目) 小学五年
実咲君 やわらかく気持ちよく書きました。
結那君 堂々としてしっかり書きました。
深瀬緑堂 選評

美緒音君 いていねいによくまとまりました。
明利君 動き大きくて力強い線が良い。
深瀬緑堂 選評

(二・三段目) 小学四年
太希君 おおらかによく書けています。
心遥君 力強い線で書けています。
河村容舟 選評

郁菜君 いていねいに書きました。
滯君 力強く書けています。がんばってね
河村容舟 選評

(三段目) 小学三年
はるか君 いていねいによく書きました。
一か君 力強くしっかりと書けています。
河村容舟 選評

みのり君 力強くよくまとまっています。
芽生君 のびやかにしっかりと書きました。
河村容舟 選評

(三・四段目) 小学二年
のぞみ君 明るくよく書けています。
ゆま君 堂々と書きましたね。
水田紅子 選評

かお君 元氣良くしっかりと書いています。
しゅうへい君 「あ」の字、筆が立ち良く書けています。
水田紅子 選評

(四段目) 小学一年
ゆいと君 のびやかに、げんきにかけました。
石川美水 選評

こな君 げんきにかけられています。なまえもじょうずに
かけました。
石川美水 選評

はると君 げんきにがんばってかけました。
石川美水 選評

多ノ郷 大城 リサ
岡豊 中司 こころ

若いアネハツルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

若いアネハツルの群れが、
キツネにおそわれたのだ。ツ
ルの群れはパニックになる。
気がつく。一羽の仲間の命
が失われていた。その一羽は
まだ幼い鳥だった。

じいさんは、がんばりやうな
手を、いろいろのたき火にかけ
しながら、愉快なかりの話を
してくれました。わたしは
その折の話を土台として、こ
の物語を書いてみました。

じいさんは、がんばりやうな
手を、いろいろのたき火にかけ
しながら、愉快なかりの話を
してくれました。わたしは
その折の話を土台として、こ
の物語を書いてみました。

長岡 森田 実咲
須崎 金堂 莉李

浦ノ内 中平 潯里
浦ノ内 正木 芳尚

じいさんは、がんばりやうな
手を、いろいろのたき火にかけ
しながら、愉快なかりの話を
してくれました。わたしは
その折の話を土台として、こ
の物語を書いてみました。

高野さんは、地いきに
住んでいる人たちに、伝
う産業である和紙作り
について教えてほしいと
思い、アンケートをお願い
いの手紙を書きました。

高野さんは、地いきに
住んでいる人たちに、伝
う産業である和紙作り
について教えてほしいと
思い、アンケートをお願い
いの手紙を書きました。

高野さんは、地いきに
住んでいる人たちに、伝
う産業である和紙作り
について教えてほしいと
思い、アンケートをお願い
いの手紙を書きました。

須崎 田村 紗雪
長岡 竹内かなこ

すさぎ 金堂 涼
上分 吉村はるか

それから何十年、町に
は、前よりもいっばい家
がたっています。ちい
やんが一人でかけおくり
をした所は、小さな公園
になっています。

それから何十年、町に
は、前よりもいっばい家
がたっています。ちい
やんが一人でかけおくり
をした所は、小さな公園
になっています。

それから何十年、町に
は、前よりもいっばい家
がたっています。ちい
やんが一人でかけおくり
をした所は、小さな公園
になっています。

それから何十年、町に
は、前よりもいっばい家
がたっています。ちい
やんが一人でかけおくり
をした所は、小さな公園
になっています。

岡豊 中司 みのり
くれ 森おか べに

佐川 井上 めい
岡豊 三谷 斗維

じゅんじょ 思い
つく ままに 話を
しても あいてに
よく つたわらない
ことが あります。

じゅんじょ 思い
つく ままに 話を
しても あいてに
よく つたわらない
ことが あります。

じゅんじょ 思い
つく ままに 話を
しても あいてに
よく つたわらない
ことが あります。

じゅんじょ 思い
つく ままに 話を
しても あいてに
よく つたわらない
ことが あります。

しんじょう なかじまゆいと
うらノ内 山さき ひな

第971回 競書成績

○印規定・随意共通昇級

条幅

審査 廣末 幽念

(※印写真版)

★推薦

★天位

※江西澄翠
※弘田賀峰
※中平美峰
※岩河里華
※田村和子
※大平圭子
※横田紫秋
※野中恵花
※岡田雄山
横山桂華
岡林邦心
岩崎竹山
伊吹悠道
小笠原廣峰
大原桂園
岡林翠
岩谷紅花
藤原朱鳳

河村容舟

★地位

※深瀬緑堂
※高橋美草
※田村眉山
大石千施
川崎志津
岡村妙慧
橋本祝芳
池脇芳春
山脇佳月
山本恵歩
藤田美知香
坂本碧香

★人位

※山中紅風
※佐竹江月
水城康華
中井隆志
大井淳
山崎隆志
杉本美邦
濱田幸子
市川美香
山西草
今井真理

規定

審査 福原 暁雲

★師範

山田 岡林邦心
旭筆 岩里華
東洋 弘田賀峰
須崎 江西澄翠
須崎 野中恵花
越知 大原桂園
南國 池川千晶
旭筆 河村容舟
山田 水田紅子
野市 小笠原廣峰
波介 市原處卿
佐川 戸田孝北
南國 西平極山
久礼 深瀬緑堂
須崎

★準師範

旭筆 大野美賀
高知 桑原智子
越知 天野喜景
須崎 山本恵歩
鷹ノ巣 松本世津
窪川 今井真理

高橋桜芳
松本世津
鈴木輝代
濱田順子

旭筆 西森令泉
上礼 佐竹江月
久礼 田中恵風
須崎 田村眉山
窪川 林口花道
佐川 大石千施
安芸 岩崎竹山
旭筆 別役美梢
吾桑 岡田雄山
越知 松浦明子
吾桑 大平圭子
旭筆 橋本祝子
山田 吉田深美
旭筆 平井桂草
久礼 浪内理奈
吾桑 高橋桜芳
仁淀川 坂本碧香
越知 横原朱鳳
久礼 山田桂華
山田 山中紅風
久礼 田村和子
大野見 高橋朱鳥
久礼 窪田碧泉
課題違い
高知 北村桂旭
審査 前田 秀華

★六段

野市 田村星子
窪川 明石美桂
旭筆 大井淳

東洋 岩谷紅花
東洋 伊吹悠道
窪川 広田秋桜
大野見 下元玉泉
香北 岡村妙慧

★五段

窪川 横田紫秋
窪川 山脇佳月
仁淀川 山本心春
旭筆 濱田幸子
窪川 武政幽雅
窪川 山崎隆志
窪川 中城康華
窪川 西村由香
香北 岡本美水
窪川 中澤英子
山田 吉永光翠
旭筆 鈴木輝代
越知 岡林翠
山田 西岡仁陽

★四段

須崎 高橋伸水
須崎 渡辺加寿
大野見 高橋翠園
旭筆 濱田順子
香北 杉本美邦
審査 西山 極山

★三段

馬路 金子知加
窪川 高橋美草

高知 坪内倫子
仁淀川 品原律子
山田 尾立千賀
久礼 山中英男
南國 西内俊二
南國 田内史恵

★二段

仁淀川 後藤和美
多ノ郷 市川美香
須崎 松坂雅月
南國 林隆光
池川 川下久遠

★初段

高知 川崎志津
仁淀川 大原紀美子
東洋 西尾明美
南國 川口虎之介
浦ノ内 藤田美知子
仁淀川 山本房
仁淀川 藤原勝子
東洋 松島利恵
東洋 前田伸枝
馬路 久保可奈
久礼 濱田美恵子
仁淀川 掛井未栄
仁淀川 鶴尾彩
審査 西山 極山

★一段

東洋 太田有紀
仁淀川 藤原衣里子
仁淀川 片岡桂子
東洋 小松悦枝
東洋 富山里恵

★三級

仁淀川○吉永美佐
仁淀川○片岡晃美

★五級

仁淀川○藤原杏実

★六級

旭筆 ○川崎 綾

★新規

七級編入
越知 真辺千津子

須崎 馬路	★四段	金堂莉李 小松太緒
★初段	長岡 吾桑	西内明利 宮崎穂花
上分	赤崎南美	中山結愛
★六級	別府	○片岡龍威
毛筆四年	審査 河村 容舟	
★八段	須南 須崎	西村太希 毛利香花
★七段	浦ノ内 須崎	正木芳尚 田村紗雪
★五段	岡豊 多ノ郷 上分 長岡	島村心遙 太田朋希 梅原未來 竹内伽菜心
★四段	多ノ郷 長岡	森光梨衣奈 宮脇治太
★三段	長岡 越知	猪野光騎 藤崎華乃
★二段	長岡 吾桑	澤村郁菜 長山優奈
★初段	野市	小笠原瑠那
★六級	越知	○宮脇未羽
★新規	九級編入	湯川 滯
毛筆三年	審査 河村 容舟	
★五段	上分 須崎	吉村はるか 金堂 涼
★四段	上分 吾桑	橋田一か 中島彩斗
★三段	多ノ郷 多ノ郷	光連太郎 はし田かほ
★二段	岡豊 岡豊	中司みのり 根口心花
★初段	別府	片岡脩平
★七級	越知 池川 別府	○宮脇芽生 ○藤原沙雪 ○吉永羽唯
多ノ郷	濱田理仁	
もうひつ二年	審査 水田 紅子	
★四段	吾桑	松坂望未
★二段	吾桑	梅原由菜
★初段	野市	小笠原恵那
★二級	岡豊	荻 かお
★四級	岡豊	○三谷斗維
★七級	池川	○藤原成琉
★七級	課題違い	
★五級	別府	片岡脩平
★四級	池川	○藤原成琉
★三段	審査 石川 美水	
★二段	須崎	金どうこな
★初段	池川	つるいはると
★九段	浦ノ内	松山 翔
★八段	浦ノ内	森田 葵
★七段	浦ノ内	宮脇改太
★六段	浦ノ内	中田翔音
★五段	浦ノ内	久保田健介
★四段	別府	後藤 樹
★三段	浦ノ内	中田翔音
★二段	吾桑	高橋芽生奈
★初段	吾桑	堅田有咲
硬筆六年	審査 野中 恵花	
★特待生	多ノ郷	大城リサ
★初段	須崎	松田菜乃
★六級	上分	柳本稀衣
★五級	上分	島村倅空
★四級	上分	加江政岡桃加
★三段	浦ノ内	山本彩喜
★二段	須崎	田村拓海
★初段	岡豊	中司こころ
★七級	浦ノ内	山本彩喜
★六級	浦ノ内	田村拓海
★五級	浦ノ内	久保田健介
★四級	別府	後藤 樹
★三段	浦ノ内	中田翔音
★二段	吾桑	高橋芽生奈
★初段	吾桑	堅田有咲

第704回硬筆成績

○印は昇級

(出品票)

出品票の名前は楷書ではっきり書いて下さい。

のり代		氏名	段	級	のり代		臨は出典名
7年	12月				7年	12月	
規定		随意					
硬筆五年 審査 野中 恵花 ★特待生 長岡 森田実咲 ★九段 野市 小笠原結那 ★八段 小高坂 川西康介 ★七段 須崎 金堂莉李 吾桑 松坂美緒音 久礼 薦田コモモ 吾桑 高橋蒼來 佐古 田村健悟 ★六段 浦ノ内 中平澤里 久礼 黒原小夏 越知 西森優奈 ★五段 吾桑 宮崎穂花 馬路 木下歌乃 ★四段 長岡 西内明利 上分 橋田 陸 吾桑 笹岡蒼馬 ★三段 池川 片岡亜李紗 越知 大原穂乃花 池川 北村日和 ★二段 上分 中山結愛 ★三級 上分 ○赤崎南美 ★五級 別府 ○片岡龍威 硬筆四年 審査 森本 寿山 ★八段 浦ノ内 正木芳尚 ★七段 須崎 田村紗雪 須崎 毛利香花 ★六段 須南 西村大希 浦ノ内 池田理人 浦ノ内 藤田彩葉 ★五段 長岡 竹内伽菜心 多ノ郷 藤崎華乃 越知 多田朋希 長岡 宮脇治太 岡豊 島村心遙 多ノ郷 坂本大和 上分 梅原末來 ★四段 上ノ加江 吉原綾人 野市 小笠原瑠那 上ノ加江 片山陽莉 久礼 日林ゆあ 吾桑 長山優奈 ★三段 久礼 黒原小春 池川 藤崎菜央 長岡 猪野光騎 ★二段 長岡 澤村郁菜 浦ノ内 森田海音 ★三級 別府○藤原すみれ ★七級 越知 ○宮脇未羽 久礼 細木龍生 ★八級 上ノ加江 山口蒼生 ★新規 長岡 七級編入 湯川 澤 硬筆三年 審査 江西 澄翠 ★六段 須崎 金堂 涼 ★五段 上分 吉村はるか 吾桑 高橋依吹 多ノ郷はし田かほ 多ノ郷森光蓮太郎 ★四段 久礼 黒原李香 浦ノ内 徳永隼斗 朝倉 根口心花 新莊 中じま彩斗 ★三段 岡豊 中司みのり 池川 北村心暖 池川 伊藤日向 池川 上村心晴 久礼 政岡有美 池川 片岡紗雪 上分 橋田 一か 長岡 安井 颯 久礼 下谷琴春							

久礼 ○佐竹真到	★八級 別府 ○吉永羽唯 池川 ○藤原沙雪	★六級 馬路 木下魁人	★四級 越知 ○宮脇芽生 長岡 ○大塚もも	★三級 長岡 堅田彩乃 村上こゆ	★初級 上ノ加江大内柚乃 吾桑 宮崎陽香 久礼 加茂海弥美 城東 丸山颯士 大谷北 倉持百花 吾桑 堅田彩乃 長岡 村上こゆ	★二級 久礼 小林奈穂 岡豊 島村昇冨 奈路 植野 葵 上ノ加江政岡倉史 久礼 岩瀬 涉 長岡 金堂孝亮 吾桑 鈴木 花
高岡 久礼 奈路かなえ 隅田珠有	★初級 佐川 井上めい 野市 小笠原恵那 岡豊 荻かお	★二級 久礼 森岡べに 浦ノ内寺内かのん	★二級 附属 江頭こう 浦ノ内 中平湧大	★三級 多ノ郷 坂本美咲 浦ノ内吉岡まひろ	★四級 多ノ郷 坂本美咲 浦ノ内吉岡まひろ	★九級 多ノ郷○濱田理仁 こっひつ二年 審査 市原 處艸
				★八級 奈路 ○坂本翔成 久礼細木しょうき	★七級 別府 ○片岡脩平	★二級 岡豊 ○三谷斗維 上分 橋田果歩
池川 ○鈴木杏 藤原成琉	★八級 吾桑 ○鈴木杏 藤原成琉	★七級 浦ノ内 ○山さきひな 久礼 毛利いろは	★六級 池川 大西悠心 久礼 日林にこ	★五級 浦ノ内 ○とくながあやと 久礼小林じゅんな	★二段 須崎 金どうこな 別府 後藤和葉	こっひつ一年 審査 市原 處艸
				★六級 おひさま もりみつるな	こっひつ ようち・ほいく 審査 市原 處艸	★九級 久礼○下谷なか ★新規 九級編入 久礼なかのせいら

宝四房文
品用道書
銘筆号田
久保国

有限
会社

筆堂

〒780-0818 高知市宝永町3-3
TEL (088) 882-1454
FAX (088) 884-7413

(出品票)

のり代	
7年 12月 毛筆	
校名	
学年	
氏名	
段級	

お知らせ

★条幅勉強会(練成会)を行ないます。

(十一月二十三日 十二時三十分より)

十一月号の一ページの古典鑑賞の中より

臨書作をご持参下さい。

(参加料 五〇〇円)

のり代	
7年 12月 硬筆	
校名	
氏名	
段級	

長年にわたり本会に御尽力下さいました

森本瓊象先生が去る九月二十六日に

お亡くなりになりました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

臨書

書を学ぶ者が、古人の書を臨することは、学書のもっとも重要な方法の一つである。学書者はこの点によく心を致さねばならぬのである。

或は剛、或は柔をもってその体をととのえ、或は力を勞して書し、或は奔逸の致をもってその姿態を異にする。或は外に括澹にして雍容の趣を現わし、その中に剛強な筋骨を藏しているものもあり、或は生木をねじ曲げて裂いた如く、鋭い筆勢を現わしたものもある。

故に古人の書を臨するに当っては、その觀察を精密にすべきである。

もし、これの觀察を精にすることが出来得なければ、それを学んでも似ることができず、結体は隙だらけで締まりがなく、ましてその神を得べくもなく、決して好書とはいえない。

たとえ、その書に躍動の美があると自負しても、その書は決して妍美とはいえない。その姿は、老婆が美女の真似をしてわが身を井にうつした、という故事の如く醜いものである。

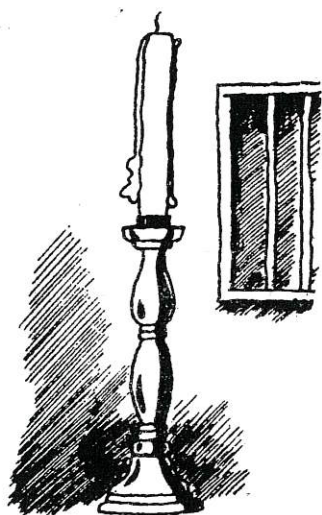
このような輩が、自らの書を王羲之や王献之の書にも勝るものであると考え、鍾繇や張芝の書を非難したとしても、識者の

眼をくらましたり、後世の人の批評を免がれることはできないのである。

古人の書を学ぶものは、よくよく慎しみ深く、謙虚な態度をもって勉学に励むべきである。

「高棲」より

——子雀記——



連絡・問い合わせ・送り先等

・新規入会申込と会費の送金先

・「龍跳誌」冊数変更の通知先

〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎 一三三一

隅田亘心

龍跳誌編集

兼松口隆雄

01690-3-31925

電話 (〇八八九) 三五〇九七一番

・月例作品の送り先

〒783-0081 南州市片山四九〇

西山極山

電話 (〇八八) 八六五―八八五七番

・「龍跳誌」の内容について

〒781-7412 安芸郡東洋町河内三〇四

福原暁雲

電話 (〇八八七) 二九―二六五〇番

・編集についての連絡先

〒785-0010 須崎市鍛冶町六―八

江西澄翠

電話 (〇八八九) 四二―三〇六七番

・送本についての連絡先

(冊数の相違等については当方へご連絡下さい。)

〒785-0055 須崎市大谷二〇四

野中恵花

電話 (〇八八九) 四七―〇七二一番

あとがき

長すぎる夏とようやくさよならできた。と、喜んでいたら今年一番の冷え込みが来て、秋は短くなってしまいました。

私は、毎日畑へ出勤、秋野菜作りに頑張ってますが、虫の被害に泣いています。高くなつた種苗代が多くかかっているのに、人間の口に入るのはいつだろうか、ぶつぶつ言いながら今日も行く。老人の一日です。

先日、勉強会の時に会長が墨色について話していたことが、書道誌の中でも質問されていた。

市販の墨汁では、いい色が出ない。良い方法は？

回答

固形墨を磨つたものは膠が強く線質に冴えがある、市販の墨汁の平板を防ぐ手段として、墨汁に固形墨で磨り込んでいくと良いでしょうとの答えが載っていました。参考までにと書かせていただきました。

急に寒くなりました、健康に気をつけて下さい。

月例競書課題

部 別	縮切日	縮切	縮切
一般条幅	十二月二十日	一月二十日	縮切
半紙規定	星見樹梢昏	自學坐來久	任意
半紙随意	任意	任意	任意
中学三年	健康対策	人類の幸福	任意
一年	研究発表	冬季休暇	任意
小学六年	四国山地	文化交流	任意
五年	強い北風	初日の出	任意
四年	冬休み	うめの花	任意
三年	大雪	げんき	任意
二年	だんろ	こたつ	任意
一年	ゆき	こま	任意
保 育			

会 費 の 送 金 に つ い て

会 費 : 半年分 3,000円 / 1 年分 6,000円

1ヶ月の龍跳誌郵送料 (R6.10~)
(幸便搬送の方は〒料不要)

①	1 冊	180円
②	2 冊~7 冊	210円
③	8 冊~20冊	430円

21冊以上は次の計算による。

21冊 ③+ ①= 610円×月数
 22冊~27冊 ③+ ②= 640円×月数
 28冊~40冊 ③× 2 = 860円×月数
 50冊の場合 ③× 3 = 1,290円×月数

◎会費と龍跳誌〒料は原則として半年分または1年前納のこと。

◎送金は次の何れかへ
 ・〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎133-1 隅田亘心
 ・振替口座番号 01690-3-31925 龍跳書道会
 (お問い合わせ) ☎0889-35-0971

○月号 (○冊) より○月号まで○ヶ月分
 誌代 ○円 / 〒料 ○円

と記入のこと。

編集室

福 原 曉 雲

野 島 桂 山

江 西 澄 翠

中 平 美 峰

発行人

福 原 曉 雲 (本部)

安芸郡東洋町河内三〇四

電話 (〇八七) 二九一二六五〇

発行所

龍跳書道会

電話 (〇八七) 二九一二六五〇

印刷所

角笹岡印刷所

須崎市東古市町二一六

電話 (〇八九) 四二一〇二四四

月例作品送り先

〒783-0081 南国市片山四九〇

西山極山宛

電話 (〇八八) 86518857